原蠶に於ける飼料の相違が次代蠶に及ぼす影響

莊 景 悲

Z.CHAN:—The influence of the environment (different quality and quantity of food supply) in parent upon the filial generation of the silkworm, Bombyx mori, L.

昭和10年春期に於て、一は全齡を通し魯桑を、他は稚蠶に市平、壯蠶に鼠返を給與し、此の 2 區の各を更に多量、標準量及少量を給與した3 區に別け、國蠶歐17號を飼育した。而して是 によつて給與の桑質と桑量を異にする飼育結果を調べだ。夫に據ると、

1) 給與する桑質の相違によつて**發育經過**には差を來さないが、桑量を少くすれば與れる、**蠶体量**は市平鼠返を給與したものより各桑を給與したものが重い、而して各桑及市平、鼠返 給與兩區何れに於ても多量を給與したものが重く、少量を給與したものは輕い。

減蠶數は市平、鼠返給與區よりも各桑給與區が多い、同質問では多量給與よりも少量給與の 方が多い。

- 2) **營繭及上繭の數**に於ては市平、鼠返給與區は鲁桑給與區に優るが、一粒の繭重、上繭重 繭層重及繭層步合に於て劣り且つ繭色悪く、さび色を呈する。
- 3) **卵の大さ、重さ、産卵數及優良卵數**に於て魯桑給與區は市平、鼠返給與區に優り、同質間では多量給與區が少量給與區に優る、給與する桑の質、量の差による**卵の强弱の**差は認めることが出來なかつた。

以上の結果を得たが是と略同一のことを既に勝木¹⁾が發表して居る、 是に於て昭和11年春期 に是等の卵より發生した蠶兒を飼育して其の結果に就て調べて見た。

本實驗の着手に當り各區の卵各 0.4gr を採り、之より發生した蟻を各二分して一は多量、他は少量の桑葉を給與飼育した。即給與した桑葉の實數は約 12876.6gr と 7620.1gr で 1.7 對 1の割合であつた。(給桑量表) 今飼育各區を表示すれば次のようである。

飼育品種	昭和10年個實條件及區名	昭和11年6	司育條件:
विग्रे छ भागवस	4日全年127月1日 阿 1871年/文章63名	多景給與	少景給與
	(1. 多 报 給 與 碼	A ₁ 166	Λ_2 底
EM .	甲・金齢終秦給與 {2. 標準 最給 與區	В1 166	B ₂ 區
政 激 歌	3. 少 景 給 與 匯	С1 Ж	C ₂ M
一七號	(1. 多 最 給 與 區	D ₁ M	D ₂ W
yjr.	乙·稚蠶市平 北蠶鼠返給與 2. 標 準 景 給 與區	E ₁ M	E_2 pa
	3. 少量給與區	F ₁ M	F2 M

給 桑 量

昭和10年		多量系	哈 與 區	少量	給 與 匯
**** *** *****************************		de 15 e - Trans de Calendar de	T.t.	The second state of the second	gr
	丝	Λ_1	12824.6	Λ_2	7671.8
魯 発	標	$\mathbf{B_1}$	12924.6	$_{\rm B_2}$	7621.8
	少	$\mathbf{c_i}$	12774.6	C_2	7671.8
		平均	12841 - 2	215 少月	7655.1
	多	$\mathbf{D_1}$	12820.6	D_2	7371.8
市平、鼠返	標	$\mathbf{E_1}$	12974.6	${ m E}_2$	7751.S
	少	$\mathbf{F_1}$	12940.6	$\mathbf{F_2}$	7631.8
		平均	12911.8	平均	7585.1
* ··· · · · · · · · · · · · · · · · · ·	i	總平均	12876.5	總平均	7620 - 1

幼蟲期日時

昭和10年		多批約			給 與	IK
	*	Λ_1	29 ii 710	A_2	3111	
魯 桑	標	$\mathbf{B_{7}}$	29 7	$ ho_2$	31	7
	少	$\mathbf{c_1}$	29 7	$\mathbf{C_2}$	31	7
		24均	29 7	平均	31	7
	多	D	29 12	D_2	31	7
市平、鼠返	標	$\mathbf{E_1}$	29 7	\mathbb{E}_2	31	7
•	少	$\mathbf{F_1}$	29 12	$\mathbf{F_2}$	31	·7
		平均	29 10	邓均	31	7
		總平均	29 9	總平均	31	7

酸生より上族に至る幼蟲期の全日數は前年の尊桑又は市平、鼠返給與の別又それ等の量の相違の別には關係なく、本年の多量給與區は約29日9時、少量給與區は約31日7時で是に2日の迅速を生じた。

 試
 休
 量

 多量給與區

昭年10年	2011 - 111 - 111	昭和 11年	第一#	冷蟻蠶	第二的	於 起置	第三	静起蠶	第四章	介 但蠶	第五齡	起置
各 秦	多標少	$\begin{bmatrix} A_1 \\ B_1 \\ C_1 \end{bmatrix}$	0.050 0.049 0.046	gr 0.048	0.561 0.551 0.537	0.550	3.007 2.908 2.826	gr 2,914	16.400 16.700 15.800	16.300	75.8 75.8 75.2	рг 75,6
市平、鼠返	多標少	$\begin{bmatrix} D_1 \\ E_1 \\ F_1 \end{bmatrix}$	0.045 0.046 0.044	0.045	0.512 0.534 0.498	0.515	2.702 2.822 2.654		15.200 15.400 14.600	15.067	71.6) 73.6 71.2	72.1

炒	痡	*^	班	M
19	111	75t F	4)(1.	litte

秤	黍	多標少	$egin{array}{c} A_2 \\ B_2 \\ C_2 \end{array}$	0.050 0.049 0.046	0.048	0,508 0,508 0,512	0.506	2.821 2.596 2.572	2.563	14.600 14.200 14.3 14.200	71.6 65.6 72.4	69.5
市平、	鼠返	多標少	$egin{array}{c} { m D_2} \\ { m E_2} \\ { m F_2} \end{array}$	0.045 0.046 0.044	0,045	0.470 0.474 0.488	0.477	2.416 2,634 2.424	2,493	14,000 14,800 14,1 13,600	67.4 66.2 63.6	65.7

熟證休重

昭和10年	:	多 揖 新	7 與 概	少量系	A 興 區
	4	Λ_{1}	352,5 K	Λ_{2}	306,5 4
4 発	標	$\mathbf{B_1}$	350.5	${ m B_2}$	285.0
	办	$\mathbf{c_1}$	330.0	$\mathbf{G_2}$	312.0
		平均	344.3	218149	301,3
	老	D_{1}	347.5	D_2	305.0
市平、鼠返	標	$\mathbf{E_{1}}$	345.0	$\mathbf{E_2}$	295.0
	炒	$\mathbf{F_1}$	332.5	\mathbb{F}_2	305.0
		2 js. j2.j	341.7	北 南	301.7
		總平均	343.0	總平均	301.5

上表の如く**嫌蠶の体重**は卵重と同様に前年の市平鼠返給與區よりも魯桑給與區が重く、同質の各區間にありては少量區が最も輕い。此の傾向は本年度の多量、少量兩給與區を通じ第四胎起蠶体重迄續くが、第五齡蠶になると魯桑給與區が市平鼠返給與區に勝る傾向があり、同質各區の体重の間には一定の傾向が見られない。熟**蠶の体重**に於ては鲁桑給與區と市平鼠返給與區との間及同一質各區の間共に差異がない。而して各區各齡を通じ共の**蠶体重**は本年の多量給與のものは少量給與のものより重い。

成 長 率

נקו	和10年		昭和11			多	录 《	} 與	in against the section of the sectio	
	an roda	年 年記號 義徽 第二齡起雛		第三齡起蠶	置陆儋四轮	第五齡 心蠶	熟	æ		
		多	A ₁	1	11.22	60.01	324.00	1516.00	7050.00	
盤	楘	繧	Bi	1	11.25 11.38	59.35 60.26	340.82 336.0	9 1546.94 1565.91	7153.06	7125.66
		少	$\mathbf{C_1}$	1	11.67	61.44	343.48	1634.78	7173.91	
		多	D_1	1	11.38	60.04	337.78	1591.11	7722.22	
市平、	鼠返	標	$\mathbf{E_1}$	1	11.60 11.44	61.35 60.57	334.78 334.80	1600.00 1604.10	7500.00	7593.85
		少	$\mathbf{F_{1}}$	1	11.32	60.32	331.82	1618.18	7556.82	
	縋	平	Kj	1	11.41	60,42	335.4	1584.50		7359,67

							少		Rt .	紒	與	ISE		gan mende agan sense der beset en stad side
咎	柔	多標少	A ₂ B ₂ C ₂	1 1 1	10.06 10.27 11.13	10,49	56.42 52.98 55.91	55.10	292.00 289.80 308.70	296,83	1432.00 1338.78 1573.91	1447.23	6130.00 5816.33 6793.48	6246.37
गायः, [认返	多標少	$egin{array}{c} { m D_2} \\ { m E_2} \\ { m F_2} \end{array}$	1 1 1	10,44 10,30 11,09	10.61	53,69 57,26 55,09	55.35	311.11 321.74 309.09	313.68	1497.78 1439.13 1445.46	1460.79	6777.78 6413.04 6931.82	6707,55
***************************************	継	१ यह	J 2.j	1	A MARIE DE LE LE TERME AND	10.55		55,23	COLUMN TO COLUMN ANALYSIS	305,41		1454.51		6477.08

上表の如く**成長の倍率**を第出し、是に就て見るに前年多量を給與せる各區間及少量を給與せる各區間に於ては其の差を認め難きも、多量給與區は少量給與區よりも亦前年市平、鼠返を給與せる區は鲁桑給與區よりも、何れも成長倍率は大である。倚又競囂の休重輕きものの生長倍率は常に大である。

			1	签	it	t i	徐	砯	[Ą	> 指	t i	紒	ùŕ	
昭和	104s		昭和 11年 記號	繭の(1立)		iķi l	计术	施店	步合	昭和 11年 記號	繭の(1次	大き 粒敷)	幽	#M	幽府	ル合
49	黍	多標	A ₁	88 92		26.0 25.6	Ę'n	15.17 14.68	14.82	A ₂ B ₂	100 101	102.3	22.0 21.0	r gr 21.7	% 14.52 14.29	14.5
		少	Cı	97	****	24.4	B-10 Park - Parks	14.60		C ₂	106		22.0		14.71	,,
		梦	$\mathfrak{D}^{\mathtt{1}}$	95		25.6		14.96		$\mathbf{D_2}$	112		20.0		13.79	
市事、真	【返	標	E_1	93	93.7	27.4	25.7	15.44	14.98	$\mathbf{E_2}$	102	108.3	91.4	21.1	14.49	14.4
		少	Fı	93		24.0	•	14.56		$\mathbf{F_2}$	111		22.0		14.93	
	総	汉军	<i>1</i> 4j		93		25.5		14.90			105.3		21.4	## E-1000 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 -	14.40

繭の大さ、繭層重及繭層歩合

繭の大さ、繭層重及繭層步合は上表の如くに多量給典區は少量給典區に優り、而して前代の 影響を蒙らぬ。

west officer of O. C. a.			多 批 給	與		少量給	與
昭和10年		昭和11 年記號	結 繭 數	上瀬步合	昭和11 年記號	粘 繭 數	上繭步合
Annual Control of the Printer and the Control of th	多	Λ1	326	97.2	Λ_2	326	% 98.8
祭 桑	標	B_1	369 356	95.4 96.7	B ₂	357 330	95.8 96.3
	炒	C ₁	374	97.6	C ₂	306	94.4
terene, menera della santi i i ili. Vir. a Miliatti i Mili molidiari martini i	多	D_1	332	98.2	\mathbb{D}_2	319	95.0
市平、鼠返	標	$\mathbf{E_1}$	370 350	95.4 95.8	E_2	355 342	95,2 95,4
	少	$\mathbf{F_{1}}$	349	93.7	F_2	353	96.0
#	· 本	均	353	96.3		336	95.0

結繭數及上繭步合

結繭數、上繭歩合は多量給興せるものは少量給與のものに優る傾向がある、然し多量給與及少量給與の各區の間には一定の傾向を認められぬ、而して其の差も亦著しくない。

DR 利[104			多	掀 #	合 與			Ŋ	旅 ;	給 與	
hit All TO	4.	昭和11 年記號	MATTE	態缸败	继属步合	結湖猛數	昭和11 年記號	供試锰數	繼蠶數	继属步台	結繭蠶數
,,	H	Aı	400	69	17.3	331	Λ_2	400	70	17.5	330
祭 祭	ES.	B_{1}	406	36	8.9	370	B2	408	47	11.6	359
	炒	$\mathbf{c_1}$	432	54	12.5	378	C_2	432	122	28.2	310
		平均	413	53	12.9	360	邓均	413	80	19.1	333
	签	$\mathbf{p}_{\mathbf{I}}$	448	114	25.1	334	D_2	446	122	:7.7	324
市平、鼠返	標	E_{1}	438	61	13,9	377	\mathbf{E}_2	438	78	17.7	360
	11	\mathbf{F}_{1}	456	97	21.3	359	F_2	456	101	22.2	355
		华均	447	91	20.1	357	2[£]Ej	447 •	100	22.4	346
		總平均	430	72	16.5	358	總平均	430	90	20.8	340

供試蠶數、斃蠶數及結繭蠶數

供試の**蠶卵重量に對する蠶兒頭數**は各區に於て異り、前年の魯桑給與區、市平鼠返給與區共 に少量給與のものが最も多い。**飼育中の斃蠶數も**亦各區に於て異り其の步合を見るに魯桑、市 平鼠返の兩者共に多量給與區が多く、標準量給與區が最も少ない。而して魯桑給與區は市平鼠 返給與區よりも少ない。結**繭蠶數**は各區の間に大差はないが、本年多量を給與したものは少量 給與のものよりも多い傾向がある。而して何れの區に於ても前年に標準量を給與したものが侵 れて居る傾向がある、然し其の差は甚だ少く之を以て優れりと斷定するのは困難である。

			多	掀	給	與			Ŋ	i d	上 业	介	al distribution and a second relative or secure 1 and 1
昭和10年		昭和 11年 記號	總卵數	受精卵		優良卵		昭和	केंद्र तार केंद्र	受精卵		優良卵	
				败	步合	數	业合	11年	總卵數	數	步合	數	步合
-	多	$\ _{\Lambda_1}$	G18	602	97.4	597	96.6	Λ_2	563	551	96 97.9	549	% 97.5
各 秦	標	$_{ m B_1}$	596	574	96.3	570	95.6	B_2	568	552	97.3	548	96.5
	炒	C_1	594	576	96.9	572	96.3	$\mathbf{C_2}$	586	586	98.5	574	98.0
		本均	603	584	96.9	580	96.2	延均	572	560	97.9	557	97.3
	惩	D_1	615	600	97.6	596	96.9	D_2	541	530	97.9	525	97.0
	標	$\mathbf{E_1}$	667	653	98.0	648	97.2	$\mathbf{E_2}$	578	563	97.4	556	96.2
	少	$\mathbf{F}_{\mathbf{I}}$	655	639	97.5	634	96.9	F_2	548	539	98.3	534	97.4
		平均	646	631	97.7	626	97.0	平均	556	544	97.9	538	96.9
		總平均	624	607	97.3	603	96.6	總平均	564	552	97.9	547	97,1

產卵總數、受精卵數及優良卵數 (50蛾平岛)

産卵總數、受精卵數及優**夏卵數**は前年の魯桑給與區と市平鼠返給與區及其の間に一定の傾向 を見出し難く又差ありとも見ることが出來ぬ、本年の多量給與區と少量給與區との間に於ては 其の差小なれども少量給與區當に少き傾向あり。

卵の大さ (100粒平均) 及重さ (10000粒重量)

昭和10年			多	量 給	一种			炒	雅 雅	合 與	
		昭和11 年記號	卵長	明确	卵厚	卵頂	昭和11 年記號	卵長	神帽	咖啡	or at
	包	$ _{A_1} $	mm 1.386	1.161	0.623	6.737	11 . E	mm	111111	mm	gr
鲁 藻	標	[] [1.378	1			Λ2	1,363	1.140	0.589	6.430
• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •		B ₁		1.160	0.621	6,672	B2	1.355	1.150	0.596	6.266
	少	$\mathbf{C_1}$	1.368	1.156	0.597	6.642	C_2	1.360	1.150	0.598	6.375
		平均	1.377	1.159	0.614	6.684	平均	1.359	1.147	0.594	6.357
市平、鼠返	签	D_1	1.384	1.161	0.606	6.689	D_2	1.858	1.151	0.597	6,442
	標	$\mathbf{E_1}$	1.378	1.156	0.598	6.558	Eg	1.353	1.150	0.509	6,346
	少	$\mathbf{F_1}$	1.384	1.157	0.598	6,607	$\mathbf{F_2}$	1.341	1.135	0.579	6.272
		यह एउ	1.382	1.158	0.601	6.618	24x 1/3	1.349	1.145	0.592	6.353
		總平均	1.380	1.159	0.607	6,651	總平均	1.354	1.146	0.593	6.355

卵の大さ及重量は前年の各區間に於て差を認むることは出來ぬ、然し本年の多量給與區は少量 給與區よりも大且重である。

總括及考察

實驗結果に據れば、

- 1) 幼蟲の發育、經過 (a) 經過日數は多量給與區は約29日 9 時、少量給與區は約31日 7 時であつて少量給與區の發育は 2 日遅れる、(b) 多量給與區、少量給與區共に前年度の給與量の多少、薬質には關係はない。
- 2) 蠶 体 重 (a) 多量給與區の各區に於て蟻蠶体重は卵重と同じく(f) 前年に標準量又は多量を給與したものは重く(e) 前年各聚を給與したものは市平、最返を給與したものより重い、(f) 而して此の傾向は第五齡起蠶迄續く。(b) 少量給與區間に於ても亦此の事は多量給與區間に於けると全く同一傾向である。(c) 少量給與區は常に多量給與區よりも体重は輕い。(d) 熟蠶体重は f) 多量給與區の前年各聚給與 3 區平均 344gr、市平最返の 3 區平均 342gr、總平均343grであつて、是と各區の間に差ありと認め難く f) 少量 給與區 に於ても之を等しく前年各聚給與の 3 區、市平最返給與の 3 區は共に 301gr にして、之と各區とを比較して差ありとは認め難い f) 然れども本年の多量給與區は常に 40gr 以上の差を以て少量給與區よりも重く、此の兩者間には差ありと認められる。(e) 次に各區の蟻蠶体重を1として各齡起蠶に於ける成長倍率を見るに f) 多量給與區は 2 簡 11.4; 3 簡 60.4; 4 能 335.4; 5 能 1584.5; 熟蠶 7359.6; 倍であり、何少量給與區に於ては2 能 10.5; 3 能 55.2; 4 能 305.4; 5 能 1454.5; 熟蠶 6477倍であつて少量區は成長率が低い、6) 而して多量給與區、少量給與區の何れに於ても前年市平、鼠返給與のものは各聚給與に比し常に成長率は高く f) 各區共蟻蠶体重の輕さものの成長率は他に比して高い。
- 3) 繭 (a) 繭の大さ、繭層重、繭層歩合、份多量給與區は少量給與區に比し勝るが向前年の鲁桑給與區と市平、鼠返給與區との間及共等の多量、標準量、少量給與の別により差ありとは認められぬ。(b) 結繭數、上繭歩合、多量給與區は少量給與區に勝るが前年の各區間に於ては差はない。(c) 上蔟蠶數、 化 結繭數に於けると同一結果であるが、 (c) 整蠶數は前年の鲁桑給與區は市平、鼠返給與區より少く又何れの區に於ても標準區が常に少き傾向がある。
 - 4) 産 卵 (a) 産卵總數、受精卵數及優良卵數 (イ) 多量給與區は少量給與區より多いが

(ウ) 昨年の鲁桑給與區と市平、鼠返給與區及其の各區間 に於て其差も少なく亦一定の傾向をも 見出せぬ。(b) 卵の大さ及重さ、(イ) 多量給與區は少量給與區より大且重であり、(ウ) 前年の鲁 桑給與區と市平、鼠返給與區及其の各區間には差はない。

是を綜合して考察するに、同一品種の蠶を桑薬の質、量を異にして飼育する時は減蠶數、蠶体重、繭の大き及重さ、繭層步合、産卵數、卵重、卵の大きを異にし其の蟻の重量も亦等しくない、之等の同一重量の蟻を同一質の桑を以て飼育すれば、減蠶數に多少の差あれど、蟻蠶体重輕きものは重きものより成長率大にして、終に体重は熟蠶に於て殆ど等しくなり、醬繭蠶數も同じとなる。而して結繭敷、繭重量、繭層步合、産卵數及産卵重は異ならない。勿論給桑量を異にする時は多量給與の方が少量給與よりも勝ることは前代の試驗成績と異ならない。之に據れば旣に勝木。によつて示されたと同じく飼育條件を異にして現はれた變異は次代に影響する所少ないようである。

本實驗着手より本稿を準する迄終始勝木喜並博士の指導を仰ぎ、また實驗中常に浦生俊興博士及山口助教授の指揮に從うた擱筆に當り感謝の意を表する。

(於 上田蠶絲專門學校)

文 献

- 1) 勝 木 喜 薫 (1918); ----品種の異なる薬を與へ飼育したる蠶鬼の結果 鑑業新報 303
- 2) 勝 木 喜 薫 (1918); 前代の飼育條件は次代に如何なる影響ありや 大日本蠶絲會報 318 (受理 昭和11年12月20日)

The influence of the environment (different quality and quantity of food supply) in parent upon the next generation of the silkworm, Bombyx mori, L.

Z. Chan

(Received Dec. 20 1936)

Résumé

When the larvae were reared with different quality and quantity of food supply in the parent 1 generation, the mortality and the body weight of the larvae, the size and the weight of the cocoon, the percentage of the silk layer of fresh cocoon, the number of eggs deposited, the size and the weight of the egg and body weight of larvae hatched from those eggs, were respectively different.

In the next (filial) generation reared under the same conditions of quality and quantity of food supply, the mortality of the larvae shows little difference in every lot, namely it is small in the lot fed on Rosō (a kind of Morus Lohn (siring) Koiz.), while large in the lot fed on Ichihei and Nezumigaeshi (both belong to Morus alba Koiz.) in parent. But concerning the growth rate of the larvae the silkworms of the lots fed normally or on Ichihei and Nezumigaeshi shows larger growth rate than that fed poorly or on Rosō.

And also those worms of the lot of which the body weight of hatched larvae is small, shows larger growth rate than those of the lot of which the body weight of hatched larvae is large.

Thus, no differences may be seen in the number of cocoon, cocoon weight of silk layer and number of eggs deposited, and the weight of egg in the next generation among different lots which were reared under various conditions of food supply in parent.

From these experiments as above mentioned, it may reasonably be concluded that the variations induced by the food conditions in parent show little influence upon the next generation. This conclusion seems to coincides well with that reported by Dr. K. Katsuki previously (1918).

(The Imperial College of Sericulture and Silk-industry, Uyeda, Japan.)